

1. 総括

専門機関からの紹介や、ホームページを見ての問い合わせ等が増え、後期は100%不登校児童の利用となった。訪問、送迎などの個別対応を行い、朝から開所したことにより、学校の代わりに通所する児童が多かった。1対1の丁寧な支援によって支援員との信頼関係を築き、小グループでの活動に参加できるようになった児童もいた。

高卒取得希望者への学習支援では、レポート作成、オンラインスクーリングなど体調に配慮しながら行った。

施設外の活動場所としての「ほわっと自然村」では、自然体験学習を通して、数学などの基礎知識を身に付ける支援を行った。「にじのもり自然学校」との合同授業も行い、交流を通して楽しみながら知識を身に付けることができるような機会を提供できた。

卓球、音楽部、写真ワークショップ、工芸、アートクラス、調理実習などは、外部講師が専門性を活かしながら、活動を通して仲間とのコミュニケーションの機会を得る充実した時間となった。楽しみながらプログラムに参加し、仲間をつくることで、学校や家庭以外の安心して通所できる場所となった。ここでの活動で、元気を取り戻し自信を付け、学校へ戻っていく児童もいた。

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	25	22	26	25	23	24	25	24	23	22	22	25
延利用者数	128	169	206	229	177	221	243	214	171	183	202	176
一日平均利用者数	7.28	7.68	7.92	9.16	7.69	9.2	9.72	8.91	7.77	8.31	9.18	7.04

※主な欠席理由：体調不良・精神不安定・家事都合

3. 担当職員

児童発達支援管理責任者：福田由美

公認心理師・社会福祉士：神戸真弓

公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士：野沢愛美

公認心理師：中尾貞人

社会福祉士：伊谷野恵

児童指導員：福田精

児童指導員：神原尚美

児童指導員：鈴木祥夫

児童指導員：斉藤加居

児童指導員：上本真澄

指導員：島中智也

指導員：渡邊瑞生

指導員：渡邊仁

指導員：野本敏希

指導員：藤沼清美
指導員：藤野美幸
指導員：豊島渉
指導員：伴裕太郎
指導員：千葉崇則
指導員：村山力斗

4. 年間支援実施内容

日課

9：00 送迎、清掃
10：00 月曜日：クリエイター講座、学習支援、ゲーム、アートクラス
火曜日：バドミントン、農業
水曜日：音楽部、アートクラス、グッドヘルス講座
木曜日：調理実習（きずな）、占い相談、農業
金曜日：写真のワークショップ
土曜日：音楽部、余暇活動
12：00～13：00 昼休憩
13：00 月曜日：e-スポーツ練習、あつもり大会、ヨガ教室
火曜日：学習指導、体験学習、ゲーム制作講座
水曜日：学習指導、アサーション講座、工芸講座
木曜日：学習指導、体験学習
金曜日：卓球、調理実習（ベルコーポ）、工芸、余暇活動
土曜日：音楽部、余暇活動
15:00～16：30 余暇活動、個別指導

余暇活動

4月 大谷資料館
6月 磯山神社（あじさい祭り）
7月 とちのきファミリーランド
11月 笠間稲荷神社（菊祭り）、筑波実験植物園

5. 成果と課題

(1)アセスメント

成果：契約時にアセスメントを行い、支援計画に活かすことができた。
個別のアセスメントにより、それぞれの課題にあったきめ細やかな支援ができた
適切な支援により、児童が元気を取り戻し、学校に戻れた児童もいた

課題：TTAPやVileland2、WAISは、評価できるスタッフが限られてしまう。
TTAPは、評価に時間がかかるため、全員に対して行うことが難しい。
BWAP2を全員の評価に使っていけるよう時間をつくる必要がある。

(2)職員研修

成果：心理療法の技法や、その根底にある思想に触れる機会が持てたことで、各スタッフが普段行っている支援の内容を改めて見直すことができた。
エピック利用者のケースを心理療法の視点から捉えなおしていくことで、エビデンスに基づいたより多様な支援の方法について共有することができた。

課題：限られた時間で要点だけを伝えた今回の研修内容では、支援の場で実践するには知識が不足している。
支援の場で実践するには、より多くのスーパービジョン、ケース検討を要する。
演習等を取り入れられると良かった。
エピックの職員だけではなく、他事業所の職員などより多くの人で共有したほう

が良い。

(3)プログラム

成果：利用者の強みを最大限に活かすため、様々なプログラムを試すことができた。

楽しみながら、仲間とコミュニケーションをとることができた

安心して過ごせる居場所になり、元気を取り戻し、学校などへ戻っていくことができた。

課題：複数のプログラムが重なり、迷ってしまう児童もいた。

(4)相談支援

成果：個別の相談で、自分のことを知り、強みを活かす活動へと参加することで、自信を付けられた児童がいた。

支援の目的を、保護者と共有することで、共同療育者として協力していただけることができた。

課題：通所回数が少ない利用者に対して、個別の相談の時間をとることが難しく、一人で悩ませる時間をつくってしまった。

モニタリング時に、保護者からも家庭での様子を詳しく教えていただくことが重要。

6. 会議・研修

(1)支援会議

毎月1回（第2木曜日）開催し、サービス等利用計画に基づいてご本人とご家族からの情報を聞き取りながら支援計画の見直しを行った。複数の視点で策定し、利用者の強みを最大限に活かせるよう計画した。

(2)職員研修

毎月1回（第4火曜日）開催し、利用者が自らの課題に気づき、スモールステップで解消に取り組んでいくためにエンパワーメントできるコミュニケーション力や心理支援の習得を目指した。

- ・傾聴
- ・ナラティブセラピー（外在化）
- ・短期療法（ソリューションフォーカスアプローチ）
- ・家族療法（多世代モデル、構造化モデル、コミュニケーションモデル）
- ・DVD視聴
- ・リフレーミング
- ・CRAFT
- ・ケース検討

○障害者施設職員研修会（新任職員コース）：島中智也

○中小企業家同友会合同入社式、フォローアップ研修会：渡邊瑞生

○中小企業家同友会女性経営者全国交流会：神戸真弓

○苦情解決研修会：全職員

○障害に対する基本的な理解と支援について/志田弘子氏：渡邊瑞生、村山力斗